

小特集

宗教からみる米大統領選挙

— 共和党候補者指名選 —

はじめに

今年 2012 年は世界的な選挙イヤーである。その中でも最も注目されているのは 11 月に行われるアメリカ大統領選挙であろう。今回の選挙で特に注目されているのが、中絶や同性婚等の宗教的価値観に関連する争点である。そうした宗教的争点に着目し、今号の採録期間 (2012 年 1 ~ 3 月) の米大統領選挙、特に共和党候補者指名選について整理しておきたい。

今回の共和党候補者選は 1 月 3 日から 6 月末までに全米 50 州で順次、実施される。共和党は従来各州に配分されている代議員を勝者が総取りする方式を採用していたのだが、今回から得票数に応じて比例分配する方式に変更した。

1. 各候補者の宗教的背景

まず、代表的な候補者を紹介しておきたい。ミット・ロムニー氏はミシガン州出身の 64 歳。中道派の代表格で、圧倒的な組織力、資金力をほこる。妊娠中絶・同性結婚を容認する発言をしたことがあり (読売・夕 1/4)、保守派からの反発を受けている。また、モルモン教徒でもある。モルモン教 (これは通称で、正式名称は末日聖徒イエス・キリスト教会) は 1830 年ニューヨーク州でジョセフ・スミスが創設、米国内の信者は全人口の 2% ほどの約 600 万人 (産経 1/8)。モルモン教徒の多い地域では圧倒的な人気だが、福音派から異端視されロムニー氏だけは支持しないという層も存在する (日経 1/5 ほか)。

リック・サントラム氏はバージニア州出身の 53 歳。「政教分離に吐き気を催す」、「リベラルな大学教授は若者を洗脳している」などの保守よりの過激な発言が注目される (読売 3/3)。本人はカトリック教徒だが、同性婚や人工妊娠中絶への反対、家族の価値の重要性を訴えること、進化論の批判などの主張が福音派と共通するために、宗教右派が主な支持層であり、どうしてもロムニー氏に入れたくない人達の受け皿となっている (産経 1/10)。

ニュート・キングリッチ氏はペンシルベニア州出身の 68 歳、カトリック教徒で、愛国者を自負する保守の代表格。鋭い論客としても知られるが、2010 年 12 月にはパレスチナ人という概念は創作されたものと発言し、物議を醸した。主張は保守そのものだが、2 度の離婚歴があり、この点で保守派、無党派層、女性の支持を得にくい (毎日 1/23)。

ロン・ポール氏はペンシルベニア州出身の 76 歳。「小さな政府」をもとめるリバタリアン (自由至上主義) で経済的な保守層から支持を集める。さらに政府機関の大幅な廃止や反戦、海外駐留米軍の即時撤退、1 兆ドルの歳費削減で財政立て直し等の政策によって無党派層、民主党支持層にも人気がある。個人的な信仰については取りざたされない (毎日 1/12)。

2. 米国社会の宗教と政治

米国における各宗教の信者数はプロテスタント 51.3% (福音派 26.3%、主流派 18.1%、黒人教会 6.9%)、カトリック 23.9%、その他の宗教・宗派 14.9%、特になし・回答拒否 16.8%と

いわれている。特に全米の3割弱を占める福音派の動向は共和党の方向性に直結するため無視できない。穏健なメインライン（主流派）の2割弱を上回り、宗教右派、保守派とも言われる彼らは、人工妊娠中絶反対、同性婚反対などを訴える候補者を支持している（日経 1/3）。

従来の共和党は裕福なホワイトカラーが主導権を握り、自由競争や市場原理を尊重、政府の介入や所得の再分配には慎重だったのだが、1960年代以降保守的な南部白人や福音派を取り込み支持層が大衆化している（読売 1/24）。さらにこうした傾向は近年ますます顕著になっている。親子ブッシュ大統領の間だけみても、父は穏健な「東部の人間」として選挙に臨んでも大統領に当選したが、息子は保守派であることを強くアピールすることで、穏健派マケイン候補を破っている。これ以降キリスト教右派の主張が重要な争点として浮上している（選択 2012年1月号）。

一方で保守のオピニオンリーダーである福音派もジレンマを抱えている。というのは福音派の信者でより保守化を進めてくれそうな候補者を支持したいというのが本音なのだが、あまりに保守層への支持を狙いすぎる候補者を共和党の代表とすると、無党派層の支持離れを招き、肝心の本選で敗れることになりかねない。実際にUSA TODAYとギャラップ社の調べでは本選でオバマ氏とロムニー氏の対決ならば拮抗するが、オバマ氏とキングリッチ氏ではオバマ氏が10%以上リードすると見られている（産経 2/2）。

3. 宗教からみる候補者選

ここでは2012年1-3月に実施された候補者選挙をまとめておく。まず各州の選挙結果は以下の通りである。

	ロムニー	サントラム	キングリッチ	ポール	開票率
1/3 アイオワ	25%	25%◎	13%	21%	88%
1/10 ニューハンプシャー	40%◎	9%	10%	23%	95%
1/21 サウス カロライナ	28%	17%	40%◎	13%	99%
1/31 フロリダ	46%◎	13%	32%	7%	98%
2/4 ネバダ	47.6%◎	11.1%	22.6%	18.6%	70.4%
2/7 ミネソタ	17%	45%◎	11%	27%	32%
2/7 コロラド	37%	37%◎	17%	9%	11%
2/11 メーン	39%◎	18%	6%	36%	84%
2/28 ミシガン	41%◎	38%	7%	12%	88%
2/28 アリゾナ	48%◎	26%	16%	8%	77%
2/29 ワイオミング	39%◎	32%	8%	21%	100%
3/3 ワシントン	38%◎	24%	10%	25%	99%
3/6 ジョージア	26%	20%	47%◎	7%	97%
3/6 オハイオ	38%◎	37%	15%	9%	88%
3/6 テネシー	28%	37%◎	24%	9%	85%
3/6 バージニア	59%◎	—	—	41%	99%

	ロムニー	サントラム	キングリッチ	ポール	開票率
3/6 オクラホマ	28%	34%◎	27%	10%	98%
3/6 マサチューセッツ	72%◎	12%	5%	10%	97%
3/6 アイダホ	77%◎	9%	3%	11%	29%
3/6 ノースダコタ	24%	40%◎	9%	27%	76%
3/6 アラスカ	32%◎	29%	14%	24%	
(日本時間 8 日午前 0 時現在)					
3/6 バーモント	40%◎	23%	8%	25%	78%
3/13 ミシシッピ	30%	33%◎	31%	4%	99%
3/13 アラバマ	29%	35%◎	29%	5%	99%
3/18 プエルトリコ	83%◎	8%	2%	1%	83%
3/20 イリノイ	47%◎	35%	8%	9%	
3/24 ルイジアナ	27%	49%◎	16%	6%	100%

敬称略、◎は勝者。バージニア州ではサントラム、キングリッチ両氏は参加に必要な署名を集められず不参加。各新聞記事による。

最終的に指名獲得に必要な代議員数は 1,144 人で、AP 通信による 3 月 24 日の時点でロムニー氏 568 人、サントラム氏 273 人、キングリッチ氏 135 人、ポール氏 50 人となり (毎日 3/25)、ロムニー氏がリードしているが、3 月時点では候補者が絞り込めなかった。それではポイントを絞って選挙結果を振り返りたい。

・宗教が争点となった州

まずは直接宗教が選挙の結果を左右した州をみてみたい。こうした州は二種類に分類することができ、宗教右派が強い州とモルモン教が強い州である。前者はサントラム氏やキングリッチ氏のような保守的な候補者に票が集まり、後者はモルモン教徒であるロムニー氏に票が集まる傾向がある。

・宗教右派が強い州

一連の候補者指名選の初戦となった 1 月 3 日のアイオワは、人口の 24% が保守的なキリスト教右派とされ、彼らの動向が選挙結果を左右し、リベラルは敬遠されるが (日経 1/3)、ロムニー氏とサントラム氏の接戦となった。CNN の出口調査によれば投票者の 47% が自らの心情を「きわめて保守的」と回答し、そのうちの 35% がサントラム氏に投票、ロムニー氏には 14%。また、投票者の 57% が福音派であり、うち 32% がサントラム氏に投票したという (毎日 1/20)。

1 月 21 日のサウスカロライナは、南北戦争発端の地で保守的なディープサウスの 5 州の 1 つ (その他ルイジアナ、ミシシッピ、アラバマ、ジョージアの 4 州)。福音派が全国平均を大きく上回る人口の 45% を占め、南部の反エリート気質を持ち、裕福な東部のエリート「マサチューセッツの穏健派」(ロムニー氏を指す) への反発が強い。結果は保守のキングリッチ氏が、それまで優位に進めていたロムニー氏を大きくリードした。キングリッチ氏にとってサウスカロライ

ナは保守の地盤であり、離婚歴の暴露など逆風がある中で保守層の45%の票を獲得する勝利であった。一方でロムニー氏は年収20万ドル（約1,560万円）以上、もしくは学歴で大学院修了以上の層からしか支持が得られなかった（東京1/23）。それ以外のディープサウスをみると、3月13日のアラバマとミシシッピでも保守のサントラム氏が勝利し、キングリッチ氏も善戦している（毎日・夕3/14）。

2月28日のミシガンはロムニー氏の出身地で、氏の父親は州知事を務めたこともある。当然、ロムニー氏優位となるはずだったのだが、キリスト教右派からの支持を集めることに成功したサントラム氏に詰め寄られた（朝日・夕2/29）。

最も多い10州の投票が行われスーパーチューズデーと呼ばれる3月6日にはロムニー氏が最多の6州で勝利したのだが、サントラム氏は3州、キングリッチ氏も1州で勝利した。ロムニー氏が有利な状況は変わらないが、テネシー、オクラホマという福音派が人口の7割を超える州では票の多くがサントラム氏に流れ、ロムニー氏は保守からの支持を集めきれなかった（読売3/8）。

その他2月7日のミネソタ、3月10日のカンザス、3月24日のルイジアナも保守の強い州でいずれもサントラム氏が勝利している。

ここまでリベラルと保守という軸に沿って述べてきたが、保守層も一枚岩というわけではなく、サントラム氏とキングリッチ氏の保守候補間でも激しい論戦が行われた。こうした状況により保守票が割れることでロムニー氏に有利な状況となる。そこでキリスト教右派は1月14日サントラム氏で一本化を目指す（毎日1/16）のだが、同氏への支持が一時失速してキングリッチ氏に票が集まったことで、キングリッチ氏がサントラム氏に協力することはなく、結局保守票を2候補者で分け合う形となった。

そうした中、2月7日のミネソタとコロラドでは初戦以降勢いがなかったサントラム氏がこの2州で勝利し息を吹き返した。そのためキングリッチ氏との間の保守間の争いが激化、真の保守は誰かという新たな争点も浮かび上がった（産経2/9）。

・モルモン教の強い州

2月4日のネバダはモルモン教の本部のあるユタの隣に位置し、モルモン教徒の多い州である。多くの州でマイナス要素となっているモルモン教への信仰がロムニー氏に有利に働いた。米メディアの調査では投票者の26%がモルモン教徒で、うち90%がロムニー氏に投票、ただし、その他の宗教でもカトリック52%、プロテスタント40%がロムニー氏に投票したため、モルモン教徒でなくても勝利していたとみられる（朝日2/6）。その他2月28日のアリゾナもモルモン教徒が多く、ロムニー氏が順調に票を伸ばした（毎日3/1）。

・宗教色の薄い州

次に宗教色が薄く、宗教的価値観が争点とはなりにくい州ではリベラルな傾向が強く、ロムニー氏やポール氏への支持が集まりやすい。

1月10日のニューハンプシャーは全米で最も宗教色の薄い州とされ、共和党支持者でも人工妊娠中絶などにも柔軟な考え方を取る人が多い。下馬評通りロムニー氏が圧勝、反戦を訴えているポール氏も人気が高く2位（毎日1/12）。CNNの調査では自らを「穏健」とする人

の 37%がロムニー氏に投票したが、「やや保守」という人の 45%、「かなり保守」という人の 30%もロムニー氏に投票したとされ、ロムニー氏が穏健な州においては保守へも浸透していることが明らかになってきた（読売・夕 1/11）。

1 月 31 日のフロリダは米国の縮図とよばれ人種や宗教などの多様性が強く、穏健な共和党支持者が多い。また、ヒスパニック系が人口の 23%（全米では 16%）を占める。一般的に共和党の厳しい移民政策を嫌い、ヒスパニック社会では民主党支持が強いのだが、フロリダのヒスパニック系有権者のうち 3 割はキューバ系で、共和党のとるキューバ政権への強硬な外交政策のために多くは共和党を支持している（読売 2/2）。CNN の調査ではヒスパニック系の 54%、福音派の 36%、女性票の 52%がロムニー氏に投票し、一方、キングリッチ氏の得票率はヒスパニック 29%、福音派 38%、女性票 28%となり、ロムニー氏の勝利となった（産経 2/2）。その他でも 3 月 3 日のリベラルな東部ワシントンでもロムニー氏の勝利、ポール氏も 2 位。3 月 20 日の大都市シカゴを抱えるイリノイでもロムニー氏が勝利した。

おわりに

以上、共和党候補者選について宗教に焦点を絞ってまとめてきた。最終的に指名獲得に必要な代議員数は 1,144 人で、AP 通信による 3 月 24 日の時点でロムニー氏 568 人、サントラム氏 273 人、キングリッチ氏 135 人、ポール氏 50 人となり（毎日 3/25）、ロムニー氏がリードしているが、3 月時点では候補者が絞り込めなかった。

（付記、その後、4 月 10 日地元ペンシルベニアでサントラム氏が大統領選から撤退することを宣言したので、5 月 2 日にはキングリッチ氏も撤退して、ロムニー氏に一本化された。）

【文責：藤野陽平】